

がかなりの危険を冒して戦傷者を診療し、爾来医学校の教師及び病院の外科医として今日まで働いたのだからもつと親しい交際の上別れるならば・彼は今年26日の米船で帰国するだろう」と不満を洩らす。81年11月Wは英国公使館付医術顧問 medical adviser として再び来日した。<sup>(3)</sup> Wの日本に対する永い友情を感じる。

(・・・は引用文中の省略を示す)

注

- (1) 東京大学史料編纂所による
- (2) 国立公文書館による
- (3) 国立外交史料館による

(魚藍坂病院)

## Monteverde 作 Edward Jenner の大理石像

加藤 四郎

牛痘種痘法の発明者であるエドワード・ジェンナー (Edward Jenner) に関連して、私達が思い浮べるイメージは、ジェンナーが、幼児を抱えこむようにして、種痘をしている大理石像であろう。それ程この像の写真や版画は、内外の多くの出版物に載せられ、人々になじみの深いものとなっている。私は、一九七九年の本学会総会において、ジェンナーの史実とともに、私の接したいくつかのジェンナー像の紹介をした。然し奇妙なことに、人々に最もなじみの深いこの大理石像については、それに接した方はもとより、長年にわたってこの所在についても正確に教えて戴ける内外人にお目にかかることはできなかった。私が最初に見出したこの像の所在を記載した文献は、ジェンナーの種痘法発明百年を記念して発行された "The British Medi-

cal Journal : Jenner Centenary Number, London, May 23, 1896.” ところが、Boulogne にあると記されている。ロンドンに The Wellcome Building は、上述の大理石像と全く同型の青銅像を蔵していることでは知られているが、一九七一年同館を訪れて青銅像に接し、次のような説明文のあったことを知った。

“EDWARD JENNER VACCINATING A CHILD  
Giulio Monteverde (1838—1917) The original bronze  
from which was copied the marble statue exhibited at  
Venice (1873) and Paris (1878) and now in the Palazzo  
Bianco Genoa.”

本学会員藤野恒三郎博士は、Palazzo Bianco の館長に問い合わせられ、この大理石像が、確かに、同館の所蔵物であることをとともに、非公開のものであるという返事を得られた。私は、W H O の蟻田功博士を介して同館と交渉し、昨年（一九八一年）八月三日、生田和良博士とともに、同館を訪れ、この像に接して写真撮影をするともにこの像に関するいくつかの資料を入手した。今回明らかにされた内容は次の通りである。一、この像は、現在イタリアの Genova

市にある Palazzo Bianco という名の同市所轄の美術館 (Via Garibaldi 11, Genova, Tel. 29 1803) の展示室にある。

この展示室は、通常閉鎖されており、訪問者に公開されていない。特に希望する者には、予め申し出があれば、見せることがある。二、その際写真撮影を希望する者は、‘Ispettorato delle Belle Arti, Via Garibaldi 18, Genova, Tel. 28 2641’ に予め許可を申請する必要がある。三、像の台座には、‘C. MONTE VERDI ROMA 1878’ と刻まれている。四、像の台座に置かれているカードには ‘Jenner inocula il vaccino al figlio P.B. 265’ と記されている。五、同館蔵の台帳のようなカードには、‘Legato Duchessa di Galliera—1892’ なる記載がある。六、館員の説明によると、彫刻家 Giulio Monteverde (一八三七—一九一七) により、この像の縮小型ともいふべきものが、石膏像として作られ、ウィーンの万国博覧会に展示されて好評を博した。当時の Palazzo Bianco は、Galliera 公である Brignole Sale 一族の所有であったが、主人公が、その像を見て、新たに、大理石像として製作を依頼した。一八七八年に、この像は、完成し、パリの万国博覧会に展示さ

れた。Palazzo Bianco は、その後その藏品とともに、Galliera 公夫人である Maria Brignole Sale の遺志により、Genova 市に奇贈され、一八九二年コロンブスのアメリカ大陸発見四百年祭にこの館で美術展が開かれたが、以後この館は、一般に公開されるに至った。

以上この像に接することができたことを報告するとともに、この像に関して、The Wellcome Building にある青銅像の説明文を始め、いくつかの文献に、矛盾する記述のあることを指摘し、新たな事実を示した。

なお本像は、極めて写實的に表現されており、ジェンナーの鋭い眼差しと、幼児のあどけない表情が、美事な対比をなして、見るものに深い感動を与えるものであった。

(大阪大学微生物病研究所)

## 中国における「医は仁術」の起源

山本徳子

わが国で、諺としても知られている「医は仁術」なる語句の原典は、中国のものによるとされている。それは、宋代に張杲の著わした『医説』が、明代において出版される際に康馮彬の書いた序文の中に存するというのである。すなわち、次の通りである。

蓋医仁術、而安老保幼防己、濟人之道備焉。さらに、その倫理的な面について述べたものが、同じく明代に著わされた徐春甫の「医本仁術」(『古今医統大全』卷三)であると  
いわれており、次のように記されている。

医以活人為心、故曰医仁術。有疾而求療、不啻求救焚溺  
於水火也。医当仁慈之術……、従事者可不鑒哉陸宣公論

これによると、徐春甫の「医本仁術」の論述は陸宣公の論に因っていることがわかる。